

授業科目名	アカウンティング入門	担当教員	小畑 克典
必修の区分	必修		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1年第3クォーター		
講義内容	<p>経理や会計関連の職に就くか否かに係わらず、民間組織の利益やコストに対する理解は、組織人に必要なリテラシーのひとつです。民間企業の営業部門なら、売上に加えて原価や粗利についての理解が必要です。製造部門なら、減価償却費や原価計算は当然理解していなければなりません。また、組織人として、出張旅費や交際費の精算などは避けて通ることはできません。</p> <p>したがって、決算書が読めるだけでなく、基礎からしっかりとした会計の知識を身につけておくことが重要となります。本講義は会計の初学者を対象とし、網羅的に基礎から会計の基礎知識を学びます。</p>		
到達目標	<p>(1) 民間組織の経理部門では、コンピュータを活用した効率化が飛躍的な進化を遂げています。しかし、コンピュータは計算・集計の道具であり、データを基に分析し、その会計処理を決定するのは、簿記を始めとする会計知識を持った人です。組織人にとって、最低限の会計基礎知識を身に付けます。</p> <p>(2) 本講義履修後には、日本商工会議所が主催する日商簿記検定3級に合格できる力を身に付けます。</p>		
授業計画	<p>第1回 イントロダクション。おカネを測るということ 「富」「金銭」「価値」の計測が、古来、わたしたちの生活・事業活動にどのように関わってきたかを振り返り、「アカウンティング」を理解することの意義を共有します。</p> <p>第2回 帳簿をつけるということ。小遣い帳から複式簿記へ 「富」「金銭」「価値」の計測方法について概観します。様々な方法がある中で、今日の企業会計で広く採り入れられることとなった複式簿記について、その特性を理解します。</p> <p>第3回 財務諸表の全体像 現在ひろく使われている財務諸表「貸借対照表」「損益計算書」の全体像を共有します。複式簿記に基づく財務諸表を用いて、当該企業の実態を一枚絵で直感的に理解する手法についても学びます。</p> <p>第4回 具体的に帳簿をつける (1) おカネの出入りを伴う取引 この回から、具体的な個別の「記帳」「仕訳」について学びます。まずは、現金・預金の出入りを伴う取引がどのように記帳されるかを理解します。</p> <p>第5回 具体的に帳簿をつける (2) おカネの出入りを伴わない取引 具体的な取引ではあっても、必ずしも現金・預金の出入りを伴わない取引について学びます。手形・小切手など、一般の生活では見慣れない取引の意義と性格について学びます。</p> <p>第6回 具体的に帳簿をつける (3) 1年を終えたところで帳簿を締める① 事業のサイクルは、通常、1年で一区切りが付きまます。この回からは、会計手</p>		

	<p>続き上「一区切りをつける」とはどういうことかを学びます。この回では、期をまたいで継続する取引の処理について学びます。</p> <p>第7回 具体的に帳簿をつける (4) 1年を終えたところで帳簿を締める② 実際取引が起きているわけではないけれども、事業の価値を測る上で必要な諸々の記帳・手続きについて学びます。</p> <p>第8回 株式会社に特有の会計手続 本講義は、専ら事業会社、とりわけ株式会社の会計に絞って進められていますが、この回では、株式会社に特有の会計手続きについて学習します。それら手続きの前提となる概念「ゴーイング・コンサーン」についても学びます。</p> <p>第9回 キャッシュフロー経営という考え方 これまでは「貸借対照表」と「損益計算書」に関わる項目に絞って講義が進んできましたが、今回は上記2表では直接に読み取れない指標「キャッシュフロー」について概観します。</p> <p>第10回 財務諸表・帳簿から物語を読みとる あらかじめ用意された財務諸表・帳簿を元に、そこから何かを読み取ることにチャレンジします。会計ルール理解のみならず、一枚絵からの直感、隠れた情報を見い出す柔軟な発想も試されます。</p> <p>第11回 様々な会計・公会計、非営利法人の会計、プロジェクト会計 一旦事業法人の会計を離れ、公会計、非営利法人の会計等を概観します。</p> <p>第12回 まとめ。おカネと上手に付き合っていくために</p>						
事前・事後学習	<p>(事前学習) 教員が指定したテキスト該当箇所に目を通しておくことは、必須ではありませんが、授業のより精確な理解に役立ちます。</p> <p>(事後学習) 授業のテーマに沿って、宿題の提出を求めます。宿題の提出・内容は、成績評価の対象となります。</p>						
テキスト	『合格テキスト日商簿記3級 Ver.14』TAC, 2023年2月。						
参考文献	都度指示します。						
成績評価の基準	<table border="0"> <tr> <td>受講態度 (出席、授業中の議論への貢献)</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>宿題の提出状況・内容</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>理解度テスト (期末テスト)</td> <td>40%</td> </tr> </table>	受講態度 (出席、授業中の議論への貢献)	20%	宿題の提出状況・内容	40%	理解度テスト (期末テスト)	40%
受講態度 (出席、授業中の議論への貢献)	20%						
宿題の提出状況・内容	40%						
理解度テスト (期末テスト)	40%						
履修上の注意 履修要件	授業・テストには、必ず電卓・筆記具を持参してください。						
実践的教育	経営分野の実務経験を持つ教員が、その経験を生かして教授することから、実践的教育に該当します。						
備考欄	・本講義を通して、財務・会計制度について日商簿記検定3級合格者と同等の理解が出来ることを目指します。「簿記検定3級合格」を具体的な目標とする						

	<p>学生は、担当教官に個別に相談のこと。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・定員超過の場合、抽選により履修者を選定する。</li></ul>
--	---